

人権について

高一

この人権作文を考えるにあたり、そもそも「人権」とは何かを調べました。

文字通り、「人の権利」(ヒューマンライツ)で「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらにもつ権利」であり、それは「全ての人が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」とも言え、それは日本の憲法にも明記されています。

一見この「人権問題」というのは、難しいテーマだと思いがちですが、私たちの身の回りには「いじめ問題」や「差別」、「インターネットにおける嫌がらせ」など、実は身近にたくさんあるのです。

その中で私がまず思ったのが、ロシアによるウクライナ侵攻についてです。今回のロシアの一方的な侵攻に、何の罪もない人々が犠牲になっています。戦争は「人間が人間らしく生きる」という大切な人権を人々から奪う行為だと思っています。

ニュースで毎日報道されていますが、つい先日まで平穏に暮らしていた人々が住む家を追われ、食べることも満足にできず地下のシェルターで暮らしています。ウクライナの人々がインタビューで「普通に生きたい」と言っていたことが印象的でした。

戦争はこの「人権」を侵害する最たるものだと思います。早くこの戦争が終結し、ウクライナの人々の人権が保障される日が来ることを望みます。

今でこそ「人権」は日本では保障されていますが、この「人権」が日本に持ち込まれたのが明治時代、つまり、つい最近のことで、戦国時代や江戸時代には「人権」という言葉も概念もなかったのです。特に、戦国時代の君主と配下との命の差は歴然だったそうです。つまり、時の君主は、部下の命など何も気にせず、消耗品のような扱いであったそうです。

戦国武将として名高い武田信玄は、部下を大切に育てて戦国最強の軍隊に育て上げたと言います。武田信玄は「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり」「信頼してこそ人は尽くしてくれるものだ」という名言を残しました。これは

家臣を信頼し大事にすることで、軍隊を強くする目的だったと言われています。結果、当時の武田軍は戦国最強の軍隊と言われ、他の大名に恐れられていました。家臣を軽んじる軍隊と、家臣を大事にする軍隊とでは圧倒的な差があったと思います。「人を信頼して大事にする」ということは、「人権を尊重する」と同じ意味だと思います。「人権」という言葉も概念もない戦国時代に、このような方針がとれた武田信玄はとても凄い武将だと思います。

結論として、雰囲気の良い会社や学校、成功している会社などに共通しているのは、「人を大事にしている」ということに尽きると思うのです。私は「人を大事にする」とは「人権を尊重する」ということを自然に理解していることだと感じました。逆に、「人を大事にしない」とは「人権を侵害する」ということになると思います。私はこの「人権」について「人間が人間らしく生きる権利で、誰もが生まれながらもつ権利」などという難しい言葉よりも「人を大事にする」という言葉が結果的にその人の人権を尊重し守っているという言葉として理解しやすいと感じました。今

後も「人権」については「人を大事にする」ことを意識して生活していきたいと思っています。